



# 令和3年度 志教育実践事例

宮城県仙台南高等学校

令和3年度 各学年の取組内容	
1年	<p>進路探究活動Ⅰ：基本的な高校生活の構築・基礎作り</p> <p>①シンキングトレーニング（教材『Iザード』活用）</p> <p>②ジェネリックスキル講話</p> <p>③WEB オープンキャンパスへの参加（全員）</p> <p>④キャリアセミナー（社会人講師による）</p> <p>⑥進路講演会</p> <p>⑤課題研究（地域課題解決プログラム）</p>
2年	<p>進路探究活動Ⅱ：更なる発展的学習と進路探求、自分を高める努力の継続</p> <p>①論文講演会（小論文・志望理由書作成指導）</p> <p>②WEB オープンキャンパスへの参加（全員）</p> <p>③進路講演会</p> <p>④東北大学教職実践演習</p> <p>⑤課題研究</p>
3年	<p>進路探究活動Ⅲ：進路実現、社会人への自覚涵養、責任感、自主自立の意識高揚</p> <p>①進路講話</p> <p>②論文講演会（小論文・志望理由書作成指導）</p> <p>③課題研究発表会（論文作成・発表会）</p> <p>④進路講演会</p> <p>⑤進路研究（「私の進む道」作成、ケーススタディ）</p> <p>⑥三者面談（夏季・冬季）による進路希望等の確認</p> <p>⑦個別面接・集団面接・集団討論等の指導</p>

徒を街に」のコンセプトのもと、フィールドワークを推奨したことで、課題解決の現実性や地域課題についてリアリティを持って解決に取り組めたことは大きな学びにつながった。地域課題研究は地域振興や街づくりを通して地域社会を見つめ直すという面と高校生が社会に参画するきっかけの一つとしての面もある。例えば「通学路に潜む自転車運転の危険」という目線でハリウコミュニケーションズ様からの課題を解決し、提案することで、自分だけではなく、地域の人々の安全安心を考えるきっかけになっている。3年生では「私の進む道」として、「進路×SDGs×課題研究」のかけ算により自分の生き方・在り方を考え、表現することとなる。



↑「地域課題プログラム」中間発表（1月）

## ◇課題研究【1・2・3学年（50時間配当）】

テーマ設定→調査・研究→発表

「総合的な学習／探究の時間」において、本格的に課題研究に取り組んで7年目となる。本年度も「三菱みらい育成財団」と連携し、様々な援助を受けながら、より規模を拡大した探究学習を実践できた。1学年では昨年度に引き続き「地域課題プログラム」として、地域の企業や団体と連携した課題解決型探究学習の実践を行った。新型コロナウイルス感染拡大防止のため予定を変更せざるを得ない部分も多々あったが、生徒の熱意と地域の方々の多大なるご協力のお陰で、本年度も充実した活動を行うことができた。特に「生

### ◇進路講演会【1・2・3学年9月（2時間配当）】

「将来」と「今」をつなげる。

社会の第一線で活躍する社会人を講師としてお迎えし、講演をいただく進路行事である。生徒が社会の事象に目を向け、視野を広げるとともに、自己と社会の関わりについて認識を新たにし、自身の生き方や将来の目標等について考え直す契機とすることを主たるねらいとしている。さらに、学習活動や特別活動に主体的に取り組む内発的動機付けへと結びつける。9月22日（水）、全校生徒を対象とした「進路講演会」がリモートにて実施されました。今年度は「国境なき教師団」として途上国への教師派遣事業を行う非営利教育支援団体「CIESF（シーセフ）」副理事長の松岡和久氏を講師として迎え、「日本のソフトパワー」というテーマで、国際社会における日本人への高い評価、あるいは、世界で評価されている日本の素晴らしい文化や風習について講演をいただいた。新型コロナウイルス感染拡大防止のため、リモートによる実施であったが、学びの多い、充実した時間となった。



↑進路講演会（9月）（※本年度はオンラインでの実施）

### ◇キャリアセミナー【1学年10月（5時間配当）】

「仕事」と「今」をつなげる。

昨年度より、主に本校卒業生を講師とするキャリアセミナー（社会人講話）を実施している。社会人からの講話やその後の交流を通し、夢を追い続けることの大切さや不安があっても前に進めるのだとい

うことを知る一方で、責任を負うとはどういうことか、給与を得るといことはどういうことかなど、社会人として生きていくことの厳しさについても理解を深める。社会人講師の豊富な経験をヒントに、これからのキャリアを考える機会としている。



↑キャリアセミナー（10月）

### ◇東北大学教職実践演習【2学年12月（3時間配当）】（※本年度中止）

「大学生」と「今」をつなげる。

例年、教員免許取得を希望する東北大生（大学院生含む）が来校し、模擬授業および座談会を行っている。模擬授業では、大学生・大学院生より大学での研究内容についてその一端をご紹介いただく。座談会では、特に高校時代の学習状況や大学での学び、大学生活、サークル活動、将来の目標等について語っていただく。受験対策について理解を深めるだけでなく、大学で学ぶことの意義や現在の高校での勉強が将来どのような形で必要になるのかということについてもお話いただき、生徒の認識を新たにすることをねらいとしている。進路目標の明確化を促す一助としても欠かせない行事である。



↑東北大学教職実践演習（12月）

#### ◇中高大で連携し地域行事へ参加【生徒会】

(※本年度中止)

「中高大」をつなげる。

毎年11月、「長町秋のフェスティバル」が開催され、大勢の来場者が訪れる。一昨年度まで、長町中学校、仙台南高校、尚絅学院大学の生徒および学生が連携し、若者連携企画として、小学生や幼児に向けた「遊びと学びの広場」の運営ボランティア活動を行ってきた。この交流会に関する一連の活動は「Nスコール」と名付けられ、交流活動のみならず、「学びをクリエイティブする学習会」というキャッチフレーズのもと、地域の小中学生および大学生との話し合いを通して、グループディスカッションについて理解を深めたり、ボランティア活動の意義について考えたりする活動が行われている。年代の差を超えて行われる活発な話し合い活動は「学びのWA」と呼ばれ、この活動のWA（輪）をさらに発展的に展開していくことが目下の大きな目標だと主催者は語っている。本校からは例年生徒会役員が参加し、会場を訪れた幼児や小学生とともに、制服の生地を使った小物づくりや工作、あるいは、地域振興をテーマとした話し合い活動等の交流を行っている。本年度も新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止となった。

#### ◇「みやぎ高校生フォーラム」での実践発表

(※本年度WEB開催)【生徒会】

例年2月に宮城県行政庁舎で行われている「みやぎ高校生フォーラム」は、本年度もオンラインを活用しての開催となった。各校で「志教育」に関わる動画を作成し、それを一定期間公開し、視聴するというものである。発表資料は本校生徒会が作成し、本校で実施7年目となる「総合的な探究の時間」における課題研究について、研究テーマや地域との関わり方など、その具体的な活動内容を紹介する4分30秒程度の動画を作成し、生徒会長が発表した。



↑「みやぎ高校生フォーラム」(WEB)で発表する生徒(2月)

#### ◇「各大学オープンキャンパス(WEB)への参加および報告書作成」【1・2学年7~8月(2時間 配当)】

例年、1・2年生には、全員オープンキャンパスへの参加を課している。1年生は東北大学へ、2年生はそれぞれの希望する大学へ必ず参加し、学んだ内容をレポートにまとめ、提出するよう指導している。提出された報告書は、文化祭にて専用のブースを設け、展示発表をする。オープンキャンパスは、大学での学びを知る初歩として大切な機会である。と同時に、志望校を直接訪れ、現地に降り立つことで、大学の雰囲気やロケーション、学生の様子などを直に知る貴重な機会でもある。「本物を知る」という経験は、個々のキャリア形成において極めて重要な意味を持つ。実際に自分の目で見、耳で聞き、肌で感ずる機会をいかに学校教育の中に盛り込んでいくかということは、今後さらにその重要性を増すに違いない。本年度も新型コロナウイルス感染拡大防止のため、ほとんどの大学でオープンキャンパスが中止されたため、代替措置として、1学年は、東北大学WEBオープンキャンパス(文系1学部・理系1学部の計2学部)に参加し、報告書を作成する活動を行った。2年生は、自分の志望校のWEBオープンキャンパスに参加し、レポートを作成する活動を行った。提出されたオープンキャンパスのレポートは、文化祭で展示発表を行い、共有した(※一般公開はせず本校生徒のみ対象)。作成した報告書やレポートは「キャリア・パスポート」に綴じ込み、フォートフォリオとして活用する。



↑文化祭でのオープンキャンパス(WEB)レポート展示(8月)



◇「キャリア・パスポート」の活用【1・2・3  
学年】通年（定期実施）】

新学習指導要領の中で「キャリア教育の充実」が明文  
化されたことを受け、本年度より「キャリア・パスポ  
ート」がすべての県立高等学校において実施されることと  
なった。この「キャリア・パスポート」は、生徒にとっ  
ては、自らの学習状況やキャリア形成を見通したり、振  
り返ったりして、自己評価を行うとともに、主体的に学  
びに向かう力を育み、自己実現につなぐ大切な活動とな  
る。一方、教員にとっては、生徒の記述をもとに生徒と  
対話的に関わることによって、生徒の成長を促し、系統  
的な指導に資するうえで大切な活動となる。本校におけ  
る「志教育」活動のあと、振り返りをさせる時間を設け、  
キャリア・パスポートの作成を促した。具体的には、年  
間の実施計画を定め、①学校行事、②各種大会・コンク  
ール、③定期考査、④学期の変わり目、などを節目とし、  
各ホームルームにおいて15分程度の時間をとり、専用  
の「振り返りシート」に記入し、ファイルに保管をさせ  
た。新型コロナウイルスのため、各種大会が中止になっ  
たり、学校行事が大幅に予定変更となったり、当初の計  
画通りに進められない部分も多々だが、導入初年度の取り  
組みとしては概ね良好であったと考える。年度末には、  
LHR等の時間を活用し、自分の記録した内容について級  
友と共有したり、話し合いを行ったりする時間を設ける  
ことも計画していたが、十分な時間を確保することがで  
きなかつた。次年度以降、さらにブラッシュアップした  
形で実施できるよう、引き続き検討を続けていきたい。

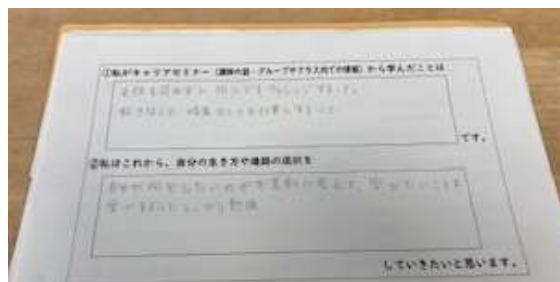
↓キャリア・パスポートファイル



↓「振り返りシート」記入例（その1）



↓「振り返りシート」記入例（その2）



↓「キャリア・パスポート」年間計画表

	A	B	C	D	E	F	G	H
1	令和3年度「キャリア・パスポート」年間実施計画(案)							
2								
3								
4								
5								
6								
7								
8								
9								
10								
11								
12								
13								
14								
15								
16								
17								
18								
19								
20								
21								
22								
23								
24								
25								
26								
27								
28								
29								
30								
31								